

2011年度 公認指導者養成講習会のご案内

技術委員会 敷下和彦

JFAは、指導者のレベルアップのため、皆さまのニーズに合わせた指導者養成講習会を開催しています。JFA主催の指導者養成講習会の修了者には、JFA公認ライセンスが付与されます。

18才以上の方なら、どなたでも受講できます！

受講を希望される方は、サッカー協会のホームページなどで開催概要・詳細などをご確認ください。概要については以下をご参照ください。



2011年度 公認C級コーチ養成講習会

サッカーの本質、プレーの原則、発育発達などU-12年代の指導にフォーカスしたカリキュラム
第1コース(11月上旬~12月上旬 会場未定) 第2コース(12月下旬 於:びわこ成蹊スポーツ大学)

【講義】-発育発達、技術・戦術理論、コーチング法、プランニングなど13時間
【実技】-ボールフィーリング、ゴールを奪う~シュートなど22時間。指導実践あり

2011年度 公認D級コーチ養成講習会

グラスルーツで活動する指導者の育成を目的に、公認C級コーチ養成講習会の内容を2日間(合計9.5時間)に凝縮したカリキュラム
第1コース 7月2日(土)~3日(日) 於:ビッグレイク 第2コースは、日程・場所を調整中

【講義】-発育発達、技術・戦術理論、指導者の役割など5時間
【実技】-ボールフィーリング、スモールサイドゲームなど4.5時間。

また、上記以外にC級リフレッシュ講習会を3回(7月、2月、3月)、A級およびB級トライアルを12月4日(日)にビッグレイクにて開催予定です。サッカーが全くの未経験の方でも、「うちの子どもにサッカーを教えてやりたいな」と考えておられる保護者の方、ぜひ、講習に参加していただき、子ども達の将来への財産を持たせてやりましょう!「指導者は、子どもの未来に触れています」(^_^)

滋賀トレセン U-12 韓国遠征 3月20(日)~23(水)

日付	着地名	時刻	交通機関	旅程(コース)	食事
1 20日(日)	関西空港 仁川空港 ソウル	13:30 15:30	KE724機 専用バス	出国手続きの後、空港、韓国の首都ソウルへ 仁川空港到着~専用バスにてソウル市内へ ソウルタワー見学後、ホテルへ	朝食 × 機内 朝食 夕食 ブルコギ
2 21日(月)	ソウル	終日	専用バス	交流試合(終日)	ホテル ○ 海鮮鍋
3 22日(火)	ソウル	終日	専用バス	交流試合(終日) 市内観光(景福宮~国立博物館など)	ホテル ○ カルビ 食べ放題
4 23日(水)	ソウル 仁川空港 関西空港	午前 15:05 16:45	専用バス KE725機	午前:市内観光(W杯競技場など) 韓国食品店にてお買い物 出国手続き後、空港にて帰国の途に 関西空港到着	ホテル 石焼 ピザ 機内 朝食

*この旅程表は最も新しい資料により作成しておりますが、交通機関の都合により出発到着時刻に変更が生じる場合があります。

滋賀トレセン U-14 ブラジル遠征 3月19(土)~29(火)

日付	午前	午後
1 19日(土)		華津(大型バス)~関空~ドーハ~空港
2 20日(日)	~ドーハ~ 機内	サンパウロ着 日本カントリーへ移動
3 21日(月)	練習	参加予定チーム 国際大会 夜 フットサル
4 22日(火)	サッカークリニック	国際大会 夜 フットサル
5 23日(水)	サッカークリニック	国際大会 夜 フットサル
6 24日(木)	サッカークリニック	国際大会 夜 フットサル
7 25日(金)	サッカークリニック	国際大会
8 26日(土)	滋賀県人会表敬訪問	試合観戦(サンパウロ市内)
9 27日(日)	買い物	
10 28日(月)	サンパウロ発(03:10)	機内
11 29日(火)	~ドーハ~	関空~(16時55分)~バス~華津

予定なので、日程や内容が変更する場合があります。

2種(高校)3大会の記録から

春季総体、秋季総体、県民体育大会の3大会の公式記録の中から、各大会の準々決勝以降の7試合をピックアップし、シュート数とゴール数を拾い上げました。下の表はその結果です。

	シュート数	平均	ゴール数	平均
春季総体	125	8.9	25	1.79
秋季総体	135	9.6	28	2.00
県民体育大会	97	6.9	17	1.21
計	357	8.5	70	1.67

(平均は1チーム当たりの数値)

また、昨年度の高校選手権でも1チーム当たりの平均シュート数10.1、平均ゴール数1.56と、ほぼ同程度の数値となっています。一方、今年度のJリーグ上位チームのデータでは

	平均シュート数	平均ゴール数
名古屋グランパス	125	1.59
ガンバ大阪	133	1.91
セレッソ大阪	133	1.71

となっています。もちろん高校生とJリーグでは試合時間が違う(春季総体・県民体育大会は70分、秋季総体は80分)ので

単純に比較はできませんが、平均得点は大きく変わらないのに、シュート数がやや少ないように思われます。公式記録からのデータですので、選手本人がシュートのつもりで蹴ったボールであっても、ディフェンスにブロックされたり、大きく枠から外れたものは記録されません。それにしても10分に1本ほどしかシュートがないのは少なすぎるように感じます。そのあたりを2種の技術委員長である野洲高校の山本監督に聞いてみました。

山本氏のコメントにもあるように、状況判断なしにシュートを打つことは良いことではありませんが、シュートなしに得点は生まれません。試合の公式記録をとっていると「アツという間に時間が過ぎてしまった」という試合があります。そんな試合はやはりゴール前のシーンが多く、両チームのシュート数も20本を越えていたりもします。記録委員としては、仕事が増えるので、シュートやゴールは少ないほうが良いのですが、滋賀県の高校サッカーのためには、常にシュートの選択肢を持ってプレーする選手がもっと

2種記録報道委員 石塚 研

もっと増えてくれることを願います。

2種技術委員長 山本佳司氏のコメント

今回のテーマについて私なりの意見を述べさせていただきます。データにあるように、シュート数が少ないという現状を2種としても真摯に受け止めたと思っています。シュート数の少ない原因をいくつか挙げてみます

- ①シュートへの意識が薄い(ファーストタッチからシュートをイメージできていないなど)
- ②シュートに至る技術の不足(バイタルエリアでの技術や冷静さ、オフ・ザ・ボールの質など)
- ③シュートまでの中盤でのゲーム構成力(シュートシーンを演出できないなど)

原因は上記のものに限りませんが、改善が必要です。

しかし、間雲にシュートを打ってもゴール数には結びつきません。滋賀の高校チームにはシュートを打つこと、ゴールすることを結びつける工夫が少し足りないのではないのでしょうか。「冷静にゴールを狙う」、「シュートシーンでも選択肢を持ってプレーする豊かなアイデア」、「チームでシュートのイメージを共有した連動性」などです。

また、Jリーグとの比較では、シュートレンジの違いがあります。高校生ももっとミドルシュートやロングシュートのレベルを上げることが必要だと考えています。